

平成28年度全国学力・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

4月19日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の仙台市立学校の調査結果については9月に公表し、今回「仙台市確かな学力研修委員会^{*1}」による分析結果と、それを基にした指導改善の方策をまとめました。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立ててまいります。

1 教科に関する調査分析結果と指導改善の方策（資料1参照）

(1) 分析結果について（教科別の全国平均正答率と市平均正答率の状況）

小学生の平均正答率については、国語及び算数のA問題は、いずれも全国・宮城県・大都市を上回っている。国語及び算数のB問題の平均正答率は、全国・宮城県を上回っているが、国語は大都市と同等、算数は大都市を下回っている。

中学生の平均正答率については、全ての教科で、全国・宮城県・大都市を上回っている。

(2) 指導改善の方策について

全国平均正答率を下回った問題を中心に分析し、指導改善の方策をまとめた。

(3) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かす。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査分析結果と指導改善の方策（資料2参照）

(1) 分析結果について

①家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習や復習をしたりしている児童生徒の割合が、昨年度に引き続き全国を大きく上回った。

②国語では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている児童生徒の割合が、全国と比べて高かった。

③算数・数学では、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える児童生徒の割合が、全国と比べて高かった。

④自分には、よいところがあると思っている割合は、全国と比べて小学生は低いが、昨年度より縮まっている。また、中学生は全国と比べて高く、これまでで最も高い割合となっている。

⑤「1日あたり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを1時間以上する」児童生徒の割合は、小中学生ともに昨年度より減少し、さらに全国を下回る良好な結果となった。

(2) 指導改善の方策について

課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめた。

(3) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策について、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かす。また教育委員会でも、「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会^{*2}」においてさらに分析を進める。

*** 詳細は別添の資料を参照**

※1 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭を委員とし、仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査結果等の分析を行う。

※2 学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会

東北大学の川島隆太教授をはじめとする研究者と、市内小中学校の校長や仙台市教育委員会で構成し、学校現場での経験や実例、学習意欲に関するデータなどを基に、脳科学や認知心理学の観点から学習意欲について科学的に分析し、学習意欲に関した提言を行ったり、教育施策へ生かしたりする。

平成28年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（概要）

※ 全国平均値を特に上回った内容を成果、下回った部分を課題として指導改善の方策をまとめました。

（詳細はP3～10を参照）

＜小学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語A	① 漢字を読み書きすること。	① 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言すること。	⇒ 書いた文章を読み合い、よさを見つけて感想を伝え合ったり、意見を述べ合ったりする活動を位置付け、文章を評価する力を高める指導を行う。
	② 目的に応じて、図と表とを関連付けて読むこと。	② 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えること。	⇒ 登場人物の行動や会話から読み取れることを考えさせ、それらを関連付けて総合的に人物像を捉えさせる指導を行う。
		③ ローマ字を読み書きすること。	⇒ ロ形指導や発音指導を通して、母音と子音による日本語の音節の規則性を理解させ、濁音や長音なども音声と関連付けて規則性に気付かせる指導を行う。
国語B	① 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。	① 質問の意図を捉えること。	⇒ 自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として相手の話を注意深く聞くことができるように指導を行う。
	② 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。	② 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問すること。	⇒ 相手の話の内容を確認した上で質問したり、内容を言い換えて確認するために質問したりするなど、具体例を挙げて指導を行う。
		③ グラフを基に、分かったことを的確に書くこと。	⇒ 図やグラフに示されている言葉や数字に注目させ、その意味を読み取らせた上で適切な言葉を用いて記述させる指導を行う。
算数A	① 数の大小関係を理解すること。	① 除数と被除数に同じ数をかけても商は変わらないことを理解すること。	⇒ 除法の性質の理解の上に立って、小数の除法を整数の除法に置き換える活動を取り入れる。
	② 三角形の底辺と高さの関係について理解すること。	② 単位量当たりの大きさの求め方を理解すること。	⇒ 問題場面を数直線などの図に表したり、既習の除法の意味と関連付けて立式したりする活動を設ける。
	③ 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解すること。	③ 直方体における面と面の位置関係を理解すること。	⇒ 具体物の観察や操作を通して、向かい合う面が平行になることや隣り合う面が垂直であることを理解させる指導を行う。
算数B	① 正方形に円が内接するときの円の半径について理解すること。	① 示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること。	⇒ 日常生活の事象と関連付けて式の意味や式に含まれる一つ一つの数値の意味を解釈させる指導を行う。
	② 単位量当たりの大きさを求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定すること。	② グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述すること。	⇒ 根拠に基づいて相手にわかりやすく説明したり、根拠が不十分な説明では何が不足しているかを話し合ったりする活動を取り入れる。
	③ 図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断すること。	③ 示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述すること。	⇒ 図形と式を関連付けて、式の意味を演算も含めて説明できるように指導を行う。また、式の意味を確認し合ったり、ノートに記述して整理したりする活動を取り入れる。

<中学校>

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科	成果	課題	指導改善の方策（概要）
国語A	① 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すこと。	① 文脈に即して漢字を正しく書くこと。	➡ 既習の漢字を日常的に使用するよう指導するとともに、辞書を活用して、部首や意味などを確認させる指導を行う。
	② 文脈に即して漢字を正しく読むこと。	② 文の成分の照応について理解すること。 ③ 文字の形や大きさ、配列に注意して書くこと。	➡ 語順の違いによる伝わり方の違いを考えさせることなど通して、文の成分の順序に関心をもたせるような指導を行う。 ➡ 具体的な事例を示し、全体で評価の観点を確認した後、個人やグループで作品を検討する活動を行う。
国語B	① 文章の中心的な部分と付加的部分とを読み分け、要旨を捉えること。	① 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること。	➡ 図書館の利用やコンピュータによる検索など複数の情報収集の方法を考えさせたり、収集方法や情報の適否について交流させたりする指導を行う。
	② 目的に応じて必要な情報を読み取ること。	② 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと。	➡ 資料から得た情報により想像が広がったり、理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして説明し合うような活動を行う。また、根拠を吟味させる指導を行う。
数学A	① 証明の必要性和意味を理解すること。	① 数量の関係を文字式に表すこと。	➡ 数量の関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、文字式に表す活動を取り入れる。
	② 一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解すること。	② 垂線の作図の方法について理解すること。	➡ 作図の個々の手順で得られる点や線分の特徴を図形の性質と関連付けて読み取る場面や、手順を振り返る場面を設定する。
	③ 「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解すること。	③ 資料を整理した表から最頻値を読み取ること。	➡ 目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動や、資料の特徴や代表値を用いる目的を明らかにし、どのような代表値を用いるべきか判断する場面を設定する。
数学B	① 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現すること。	① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方策を数学的に説明すること。	➡ 問題解決の方法について、表、式、グラフなどのどれをどのように用いるか説明し合い、互いの説明を比較検討する活動を取り入れる。
	② 与えられた条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めること。	② 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現すること。	➡ 日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために必要な資料を収集し、相対度数を求めて資料の傾向を捉え、その結果を基に説明するという一連の活動を体験できるようにする。
	③ 筋道を立てて考え、証明すること。	③ 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること。	➡ 与えられた式において、文字を処理した手順を数学的に考察し、説明できるようにさせる場面を設定する。

【小学校 国語A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
72	73.0	72.9	74.1	+1.2

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	79.2	80.0	+0.8
書く能力	72.8	75.0	+2.2
読む能力	78.5	78.2	-0.3
言語についての知識・理解・技能	71.1	72.6	+1.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	79.2	80.0	+0.8
書くこと	72.8	75.0	+2.2
読むこと	78.5	78.2	-0.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.1	72.6	+1.5

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 漢字を読む問題（「快晴」，「貯金」，「省く」）の平均正答率は88.1%と高く、いずれも全国を上回っている。一方、漢字を書く問題（「種」，「親しい」，「相談」）の正答率はいずれも全国を上回ってはいるものの、3問の平均正答率は76.0%とあまり高くない。特に、「親しい」については無解答率が13.5%と比較的高くなっている。
- ② 目的に応じて、図と表を関係付けて読む問題では、正答率が全国とほぼ同じで93.2%となっており、相当数の児童ができています。
- ① 書き手の表現の仕方をよりよくするために助言する問題の正答率は、全国を2.2ポイント上回ってはいるものの、69.6%であり、目的や意図に応じた文章構成や表現についての理解に課題がある。
- ② 登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉える問題の正答率は、全国とほぼ同じで、63.1%と低く、人物像を説明するための根拠となる表現を適切に捉えることに課題がある。
- ③ ローマ字の問題ではどの問題においても全国を上回っているが、3問の平均正答率が50.1%であり、平仮名で表記されたものをローマ字で書いたり、ローマ字で表記されたものを正しく読んだりすることに課題がある。また、どの問題においても無解答率が高く、特に「hyaku」を読むでは、23.3%と全問題中一番高い。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 文や文章の中で漢字を使う習慣を身に付けさせたり、興味・関心をもたせ漢字に慣れ親しませたりする指導を継続的に行うことが大切である。そのためには、新出漢字の指導を丁寧に行うとともに、音読を通して漢字の読みに習熟させる、板書で漢字を意識させるなどの工夫が今後も望まれる。
- ① 書いた文章を互いに読み合い、よさを見つけて感想を伝え合ったり、意見を述べ合ったりするなどの活動を書くことの学習過程に明確に位置付け、文章を評価する力を高めていくことが大切である。それとともに、書く目的や意図、相手に応じて、文章構成や表現を工夫できるように指導しておくことも大事である。
- ② 登場人物の人物像を捉えるには、各場面に描かれた登場人物の行動や会話を取り出し、そこからどのようなことが読み取れるのかを考えるとともに、それらを関係付けながら総合的に人物像を捉えることが重要である。また、各場面の移り変わりに注意しながら読むことによって、登場人物の人物像をより明確にすることも大切である。さらに、高学年では、物語の進行に伴って変わっていく人物の相互関係にも目を向けさせる指導も工夫するようにする。
- ③ ローマ字の指導に当たっては、日本語の音節が子音と母音であることを口形指導や発音指導などを通して、規則性について理解させる必要がある。また、濁音、半濁音、長音、拗音、促音などについて、音声と関係付けながら規則性があることに気付かせることができるように指導することが重要である。そのためには、日常生活において、ローマ字表記と接する機会を意図的に設定し、ローマ字を読んだり書いたりする必要性を感じることができるよう指導することが大切である。

【小学校 国語B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
56	58.8	57.8	58.8	+1.0

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	54.7	55.5	+0.8
話す・聞く能力	51.1	50.8	-0.3
書く能力	53.4	54.6	+1.2
読む能力	69.3	70.5	+1.2
言語についての知識・理解・技能	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	51.1	50.8	-0.3
書くこと	53.4	54.6	+1.2
読むこと	69.3	70.5	+1.2
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

【国語B：○成果と●課題について】

- ① 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題の正答率は、79.4%で、全国を2.2ポイント上回っている。
- ② 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題の正答率は78.2%で、全国とほぼ同じとなっている。
- ① 質問の意図を捉える問題の正答率は49.9%と低く、全国を1.2ポイント下回っている。
- ② 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問をする問題の正答率は49.6%と低く、全国とほぼ同じである。
- ③ グラフを基に、分かったことを的確に書く問題の正答率は、全国を1.5ポイント上回ってはいるものの、44.9%と低く、全問題中で一番低くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 高学年になると児童の興味・関心がより多様となるため、読む目的をしっかりともち、その目的に応じて複数の本や文章などを選んで比べて読むことが必要となる。そのため、課題意識をしっかりとめるとともに並行読書や教師選定の図書の紹介、インターネットの検索指導などを通して、調べ方や整理の仕方を学ばせることが今後も大切である。
- ① 必要かつ有効な情報を得るためにインタビューメモが役立つことを児童が実感できるように指導を工夫することが大切である。インタビューメモの作成に当たっては、調査等の目的をはっきりさせ、これまでに分かっていることや目的に応じて必要な事柄について調べたことを基にして、質問の具体的な内容や順序などを考えていく必要がある。質問に対する回答を予想し、それに応じた質問ができるように、また、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として相手の話を注意深く聞くことができるように指導することが大切である。
 そのためには、教師の演示などによるインタビューのモデルを提示するなどして、話の展開に沿った質問の仕方を具体的に示したり、自分のインタビューの仕方を振り返る機会を設定したりするなど工夫するようにする。
- ② 目的意識をもって主体的に聞くためには、日常における会話や学習活動における話し合い等において、相手の話を受けて返すという態度を意図的に育てていくことが大切である。相手の話の内容を確認した上で質問したり、相手の話の内容を言い換えて確認の質問をしたり、相手の話の内容と関係付けて質問したりするなど、具体例を挙げて指導するなど工夫するようにする。
 また、話す・聞く活動を課題解決の過程となるように位置付けること、自分の話す・聞く活動を振り返り、よかった点や改善すべき点を明らかにできるようにすること、各教科や総合的な学習の時間、特別活動などとの関連を図ることなどが大切である。
- ③ 図表やグラフについては、・何を表す図表やグラフなのか、・図表やグラフの中にあるそれぞれの情報は何を表しているのか、・どの言葉や数字に注目すればよいのか、・注目する言葉や数字は何を意味するのかという点から読み取ることが大切である。その上で、必要な情報について適切な言葉を用いて記述することが大切である。

【中学校 国語A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
77	75.8	75.6	78.9	+3.3

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	78.9	82.8	+3.9
書く能力	73.7	76.9	+3.2
読む能力	78.6	82.1	+3.5
言語についての知識・理解・技能	73.9	76.8	+2.9

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	78.9	82.8	+3.9
書くこと	73.7	76.9	+3.2
読むこと	78.6	82.1	+3.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.9	76.8	+2.9

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す問題の正答率は94.5%、全体と部分との関係に注意して話を構成する問題の正答率は90.9%と高く、いずれも全国を1.4ポイント、2.2ポイント上回っている。
- ② 文脈に即して漢字を正しく読む問題の平均正答率は94.1%で、全国を平均ポイントで2.5上回っている。
- ① 文脈に即して漢字を正しく書く問題では3問中2問（「研究」、「植える」）の平均正答率は89.4%で高いが、「独創」の正答率は、全国を8.8ポイント上回ってはいるものの、34.9%と低くなっている。
- ② 文の成分の照応について理解する問題の正答率は、全国を4.4ポイント上回ってはいるものの、55.2%と低くなっている。
- ③ 文字の形や大きさ、配列に注意して書く問題の正答率は、全国を2.8ポイント上回ってはいるものの、39.2%と低くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ① 自分が伝えたいことを話す際には、相手の立場や状況を考え、話の内容だけではなく、話し方を工夫するように指導することが大切である。例えば、職場体験の依頼や確認の電話をするためのリハーサルなどを通して、相手や場に応じた言葉遣いなどについて確認する活動が必要である。また、用件などを相手に明確に伝えるには、聞き手への伝わり方を考えて、話の全体だけではなく、各部分をどのように述べればよいのかを考えるように指導することが大切である。
- ② 漢字を読むことの指導においては、それぞれの文脈の中でどのような意味で用いられているかを考えながら読むように指導することが大切である。また、漢字の構造から読みを類推したり、文脈の中で読み方と意味とを関連させて理解したり、似た意味であっても場面や状況によって使う言葉が異なることを確かめたりするなどの指導が重要である。
- ① 漢字を書くことの指導については、既習の漢字を日常的に使用するように指導するとともに、漢和辞典や国語辞典などを活用して、それぞれの漢字の部首や意味などについて確認させることが必要となる。特に、同音異義語については、読み取りの中で他の語句と比較して意味を考えさせるなど、文脈に即することを意識させることが大切である。
- ② 文の成分の照応については、語順の違いによって伝わり方がどのように変わるかについて考えさせ、文の成分の順序に関心をもたせることが重要である。読むことでは何を詳しく説明しようとしているのか、どのような効果があるのかを考えさせ、書くことにおいても推敲の際の観点の一つとして取り上げることが大切である。
- ③ 書写の学習においては、観点を示して作品を評価する活動を取り入れることが大切である。具体的には、特徴的な事例を示し、全体で観点を確認した後、個人やグループで作品を検討するなどの学習が有効である。また、目的に応じて効果的に書くことを意識付けるために、社会生活の中で見られる文字の大きさや配列の工夫などについて適宜取り上げて指導することも考えられる。

【中学校 国語B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
6.8	67.0	66.5	71.4	+4.9

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	58.3	63.4	+5.1
話す・聞く能力	—	—	—
書く能力	58.3	63.4	+5.1
読む能力	66.5	71.4	+4.9
言語についての知識・理解・技能	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	58.3	63.4	+5.1
読むこと	66.5	71.4	+4.9
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—

【国語B：○成果と●課題について】

- ① 「活用」に関するB問題は、全9問すべてにおいて全国を上回っており、最大で6.1ポイント、最小で3.3ポイントの開きがある。
- ② 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える問題の正答率は81.5%で、全国を5.3%上回っている。
- ③ 目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率は87.9%で、全国を4.6ポイント上回っている。
- 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える問題では、全国を6.1ポイント上回ってはいるものの、正答率は55.3%と低くなっている。条件1、2は満たしているものの、条件3を満たしていない解答は31.3%であり、疑問に思ったことを学校図書館で調べる際の必要な本の探し方を考えることに課題がある。
- 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書く問題の正答率は63.7%で、全国を6.0ポイント上回っているものの、無解答率は19.6%と全問を通して最も高くなっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② ちらしやポスター、パンフレットなどの実用的な文章を読む際には、目的に応じて中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、内容を的確に捉えることが大切である。実際に身の回りにあるちらし等を比較しながら読み、だれを対象としているのか、どのようなことを伝えようとしているのか、話し合うなどの活動が今後も大切である。
- ③ 本や文章などを読む際には、目的に応じて必要な情報を得ることができるように指導することが大切である。目的に応じてちらしやパンフレットなどに書かれている情報について下線を引いたり色分けをしたりしながら整理し、それらに関連付けることで得られる情報について話し合ったり、同じ目的で書かれた複数のちらしやパンフレットなどを読み比べ、情報の提示方法を比較したりするなどの工夫が必要となる。
- 学校図書館の利用に当たっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置についての知識を生かしたり、コンピュータを使って検索したりするなど複数の情報収集の方法を考えるように指導することが重要である。また、収集の方法や情報の適否について交流するなど、より主体的な学習を行うように指導することも大切である。
- 文学的な文章を読む際に、必要に応じて語注や脚注、百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから得た情報を補足することによって、場面の様子などについてより想像を広げたり理解を深めたりすることができる場合がある。そのためには、学校図書館や地域の図書館、公共施設、あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなどそれぞれの特徴を生かした適切な情報収集の方法を身に付けることが有効である。また、資料から得た情報を踏まえることで、より想像が広がったり理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして説明し合うように指導することも大切である。その際、根拠として示した内容が自分の考えや気持ちを支えるものになっているかどうかについて吟味するように指導する必要がある。

【小学校 算数A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
77	77.8	77.6	78.3	+0.7

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	—	—	—
数量や図形についての技能	82.5	81.8	-0.7
数量や図形についての知識・理解	75.4	76.7	+1.3

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	80.5	80.4	-0.1
量と測定	77.0	80.5	+3.5
図形	78.8	78.5	-0.3
数量関係	68.5	70.5	+2.0

【算数A：○成果と●課題について】

- ① 数 (7.1 7 7.01) の大小関係を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 79.0%で、全国を 4.9 ポイント上回っている。
- ② 三角形の底辺と高さの関係について理解しているかどうかをみる問題の正答率は 87.2%で、全国を 5.2 ポイント上回っている。
- ③ 「1」を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 54.6%で全国を 3.7 ポイント上回っているが、今回の調査で最も正答率が低い設問になっている。
 - ① 除数と被除数に同じ数をかけて $2.1 \div 0.7$ を $21 \div 7$ に置き換えても、商は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題の正答率は 65.7% で、全国を 2.8 ポイント下回っている。
 - ② 単位量当たりの大きさの求め方を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 73.9%で、全国を 1.9 ポイント上回ってはいるが、無解答率は 4.8% (全国は 4.3%) となっている。
 - ③ 直方体における面と面の位置関係を理解しているかどうかをみる問題の正答率は 76.6%で、全国を 1.4 ポイント下回っている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ③ 基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるように、問題場面がどのようなことを表しているのかを理解し、そのイメージを線分図や数直線などを用いて表現することが必要である。また、増量や値引きなど様々な場面で割合が用いられているので、日常生活と関連させた指導も大切である。
- ① 解答類型 2 [㉑に 21, ㉒に 3, ㉓に 0.3] の反応率が 26.8%であることから、除数と被除数をそれぞれ 10 倍すると商は $1/10$ になると判断していると考えられる。そこで、除法の性質の理解の上に立って小数の除法を整数の除法に置き換える活動を取り入れることが大切である。なお、除法の性質は、通分や約分及び分数の除法でも活用されるため、それぞれの場面で除法の性質について振り返る場を設け、理解を深めることが重要である。
- ② 解答類型 4 [$8 \div 14$ と立式] の反応率が 14.6%であることから、異種の二つの量には着目できているものの、単位量当たりの大きさを求める式の意味が理解できていないと考えられる。そこで、問題場면을数直線などの図に表したり、既習の除法の意味と関連付けて立式したりする活動を設けることが大切である。
- ③ 立方体や直方体の学習では、具体物の観察や操作活動などを通して、向かい合う面が平行になることや隣り合う面が垂直であることを理解できるようにすることが大切である。さらに、立方体や直方体を見取図や展開図に適切に表す活動を行った上で、見取図のある面に対して平行な面や垂直な面を考えさせる活動も考えられる。

【小学校 算数B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
46	48.3	47.2	48.0	+0.8

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	40.9	42.0	+1.1
数量や図形についての技能	53.3	52.2	-1.1
数量や図形についての知識・理解	69.5	70.9	+1.4

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	44.4	44.3	-0.1
量と測定	43.7	45.0	+1.3
図形	36.3	37.4	+1.1
数量関係	42.9	43.9	+1.0

【算数B：○成果と●課題について】

- ① 正方形に円が内接するときの円の半径について理解しているかどうかをみる問題の正答率は78.9%で、全国を2.4ポイント上回っている。
- ② 単位量当たりの大きさを求めるために、示された資料のほかに必要な情報を判断し、特定することができるかどうかをみる問題の正答率は53.2%で、全国を4.9ポイント上回っている。
- ③ 図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することができるかどうかをみる問題の正答率は26.5%で、全国を1.1ポイント上回っている。
- ① ハードル走の場面において、示された式（40m 走のタイム + **0.4** (秒) × ハードルの数 = 目標のタイム）の中の数値の意味を、ほかの数値や演算と関連付けて解釈し、それを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は14.7%で、全国を0.9ポイント下回っている。また、無解答率は23.4%（全国は18.6%）で、今回の調査の中で最も高い設問となっている。
- ② グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に示された事柄が正しくない理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は26.5%で、全国を1.6ポイント上回ってはいるが、無解答率は13.4%（全国は13.2%）となっている。
- ③ 示された除法の式（ $360 \div 120 = 3$ ）を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる問題の正答率は6.9%で、全国と同等となっている。また、今回の調査で正答率が最も低い設問で、無解答率も19.3%（全国は18.7%）となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 解答類型1 [1 各学校の、図書館を利用した人数] の反応率が25.9%であることから、資料を活用して単位量当たりの大きさ（学校ごとの1人当たりの本の貸し出し数）を求めるために、ほかに必要な情報を判断し、特定できるような場面を設けることが大切である。また、解決したい問題を明確にして必要な資料を集め、集めた資料を分類整理し、表に表したり、表から読み取ったり、判断したりするなどの活動を行うことが考えられる。
- ① 解答類型3 [1 ハードルを跳ぶことによって、40m 走より増える時間] の反応率が33.1%であることから、日常生活の事象と関連付けて式の意味や式に含まれる一つ一つの数値の意味を解釈することが大切である。例えば本設問では「 0.4×4 は4台のハードルを跳ぶことによって40m 走より増える時間である」と解釈するだけでなく、「 0.4×4 の0.4は何を表しているか」などと問う場面を設けることが有効である。
- ② 複数のグラフを比較するときは、それぞれの目盛りの大きさなどに留意して的確に読み取ることができるようにすることが大切である。また、事象に対して判断したことを説明する際には、判断した根拠を明らかにし、相手にわかりやすく説明したり、根拠となる事柄が不足している説明を取り上げ、説明として何が不足しているかについて話し合ったりする活動も考えられる。
- ③ 解答類型5 [360 は、1回転した角の大きさです。120 は④の角の大きさです。] の反応率が22.6%であることから、図形と式を関連付けて、式の意味を演算も含めて説明できるようにすることが大切である。また、図形と式を関連付けて明らかになった式の意味について、児童同士で再度確認したり、ノートに記述して整理したりする活動を適宜取り入れることが有効である。

【中学校 数学A問題 一主として「知識」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
6.0	62.8	62.2	65.2	+3.0

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	—	—	—
数学的な技能	66.9	69.8	+2.9
数量や図形などについての知識・理解	56.8	59.9	+3.1

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	65.9	67.6	+1.7
図形	67.1	70.2	+3.1
関数	52.0	56.6	+4.6
資料の活用	56.5	60.2	+3.7

〔数学A：○成果と●課題について〕

- ① 証明の必要性と意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率は67.9%で、全国を6.0ポイント上回っている。
- ② 一次関数 $y = ax + b$ ($y = 3x - 2$) について、変化の割合が一定で a の値に等しいことを理解しているかどうかをみる問題の正答率は64.1%で、全国を9.5ポイント上回っている。また、無解答率は17.9% (全国は22.3%) となっている。
- ③ 同じ試行を繰り返し行う場面において、「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことを理解しているかどうかをみる問題の正答率は77.2%で、全国を11.2ポイント上回っている。
- ① 数量の関係 (ある数を3でわると、商が a で余りが2になります。ある数を、 a を用いた式で表しなさい。) を文字式で表すことができるかどうかをみる問題の正答率は34.9%で、全国を2.7ポイント上回っている。また、無解答率は13.1% (全国は12.5%) となっている。
- ② 垂線の作図の方法について理解しているかどうかをみる問題の正答率は30.8%で、全国を0.1ポイント下回っている。また、今回の調査で正答率が最も低い設問となっている。
- ③ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率は42.2%で、全国を3.3ポイント下回っている。また、今回の調査で無解答率が20.0% (全国は17.4%) と最も高い設問となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ② 一次関数の変化の割合の意味を理解し、事象の考察やその説明に適切に用いることができるように、 x の増加量とそれに伴う y の増加量を調べ、変化の割合は必ず x の係数と一致することを表を用いて確認する場面を設定することが有効である。また、一次関数の式 $y = ax + b$ の変化の割合 a が、グラフでは「右へ1進むと、上へ a 進む」ことを表すことに着目し、変化の割合と一次関数のグラフの傾きが一致することを理解できるようにするなど、式、表、グラフを相互に関連付けることが大切である。
- ① 事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにするために、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式 [例：(被除数) = (除数) × (商) + (余り)] を利用したりして関係を捉え、文字式に表す活動を取り入れることが重要である。
- ② 解答類型2 [イ 直線APは、辺BCの垂直二等分線] の反応率が34.1%であることから、手順に従った作図によって、何が作図できたのかを理解できるようにするために、個々の手順で得られる点や線分の特徴を図形の性質と関連付けて読み取る場面を設定することが大切である。また、作図を具体的な場面で活用できるように、例えば△ABCの面積を求めるために辺BCを底辺とする高さを表す線分を作図し、その手順を振り返る場面を設定することが考えられる。
- ③ 資料の代表値を求めることができるようにするために、目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れることが有効である。また、資料の特徴や代表値を用いる目的を明らかにし、どのような代表値を用いるべきか判断し、説明する場面を設定することが大切である。

【中学校 数学B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
44	45.0	44.1	48.2	+4.1

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	38.9	42.7	+3.8
数学的な技能	58.5	63.2	+4.7
数量や図形などについての知識・理解	—	—	—

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	51.5	55.4	+3.9
図形	33.3	39.3	+6.0
関数	41.4	44.9	+3.5
資料の活用	39.3	43.4	+4.1

【数学B：○成果と●課題について】

- ① 与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、数量の関係を数学的に表現することができるかどうかをみる問題の正答率は38.9%で、全国を5.5ポイント上回っている。また、無解答率は17.2%（全国は19.3%）となっている。
 - ② 与えられた条件を基に、表から2つの数量の変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は66.3%で、全国を7.2ポイント上回っている。
 - ③ 筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題の正答率は36.3%で、全国を6.9ポイント上回っている。また、無解答率は17.9%（全国は22.3%）となっている。
- ① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題の正答率は33.3%で、全国を3.0ポイント上回っている。
 - ② 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することができるかどうかをみる問題の正答率は35.7%で、全国より4.6ポイント上回っている。また、無解答率は31.3%（全国は33.5%）となっている。
 - ③ 与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題の正答率は18.5%で、全国を3.1ポイント上回っているが、今回の調査で最も正答率が低い設問となっている。また、無解答率は39.4%（全国は41.5%）で、今回の調査で最も高い設問となっている。

指導改善の方策

<上記○●に対応した指導上のポイント>

- ③ 解答類型6, 7[仮定とされていないものを用いているもの]の解答率が21.7%である。図形の考察において、成り立つ事柄を予想することができるようにするために、コンピュータを利用したり、実際に図をノートにかいたりして、ある条件を変えずに図形の形を変えて観察し、形が変わってもいつでも成り立つ性質を見いだす活動を取り入れることが考えられる。また、その性質を証明する必要性を確認する場面を設定することも大切である。
- ① 様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかを明らかにできるようにすることが大切である。その際、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について説明し合い、お互いの説明を比較検討する活動を取り入れることが考えられる。このような活動を通して、表、式、グラフを用いるよさ、数学を活用するよさの感得が期待できる。
- ② 解答類型4 [7260÷1087]の反応率が8.8%である。第2学年で学習する確率の基礎になることなどから、具体的な場面を通して、相対度数の必要性和意味の理解を深めることが大切である。また、日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために必要な資料を収集し、相対度数を求めて資料の傾向を捉え、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにすることが重要である。
- ③ 文字を用いて処理した式を読み取り、問題解決の方法を説明することができるようにするために、処理の手順を数学的に考察する場面を設定することが考えられる。例えば、本設問では、文字を使って手順通りに求めた数が $5a+10$ になることから、 $5a+10$ を「 a の値を5倍して10をたした数」と読み取り、 a の求め方は「手順通りに求めた数から10をひいて5でわる。」などと説明できるようにすることが大切である。

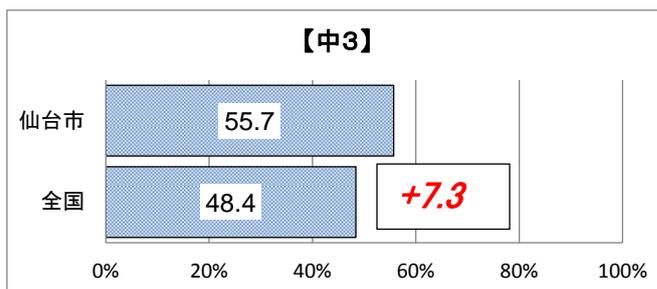
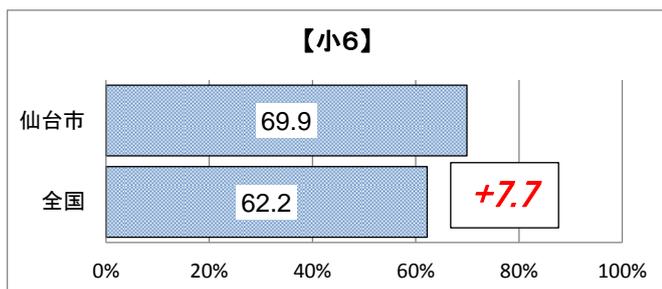
平成28年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果と指導改善の方策(概要)

※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。
(グラフの数値は、当てはまる、どちらかといえば当てはまるを合わせた割合)

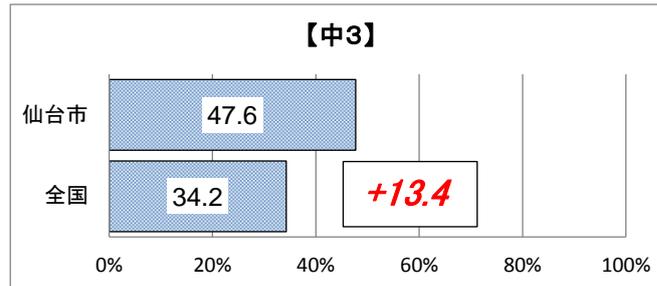
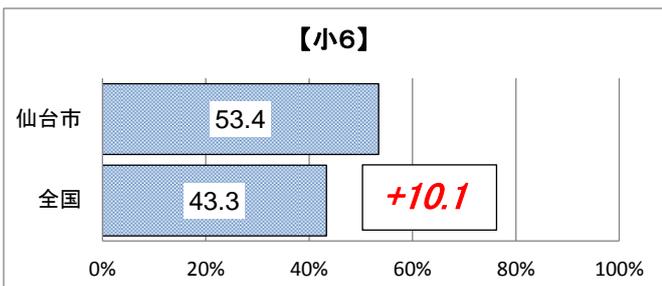
【分析結果 1】

家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の授業の予習や復習をしたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。

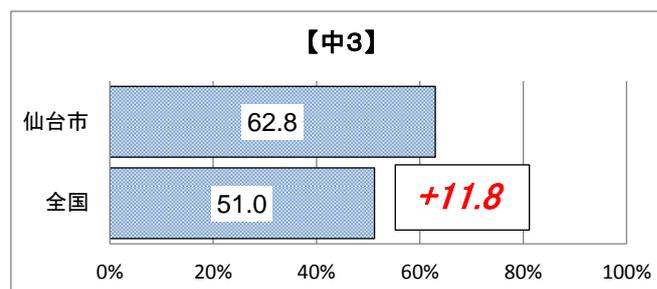
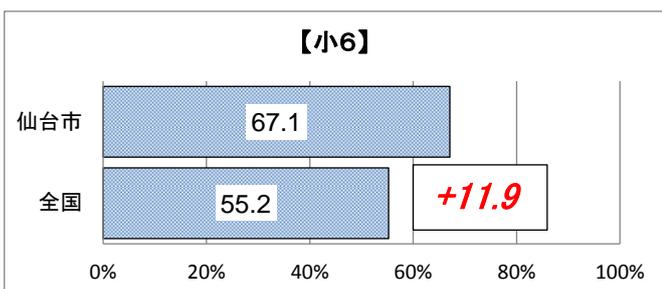
2 1. 家で、自分で計画を立てて勉強している



2 3. 家で、学校の授業の予習をしている



2 4. 家で、学校の授業の復習をしている



□指導改善の方策

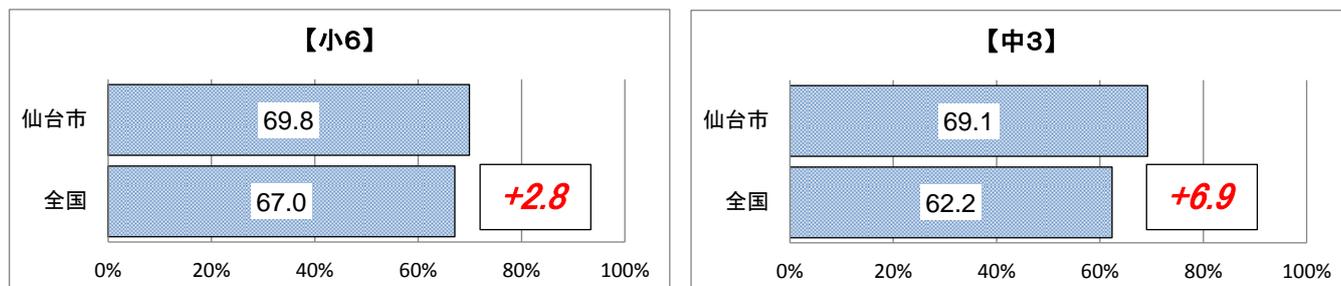
○計画的な家庭学習の推進

- 「家庭学習ノート仙台」の活用や「学習の手引き」等の作成などを通し、児童生徒自身が自分の課題を認識して目標を立て、改善のための「学習計画」を立てるなど、家庭学習の習慣化を図るようにする。

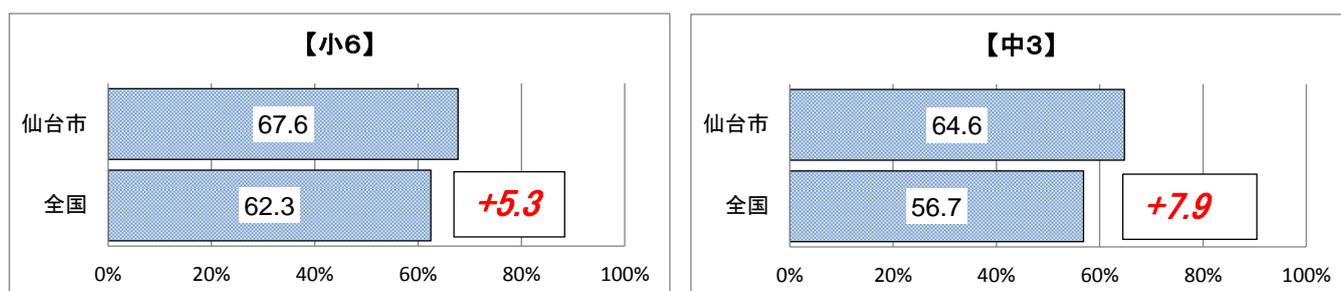
【分析結果 2】

国語では、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。また、意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫したり、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いたりしていると回答した児童生徒の割合が高い。

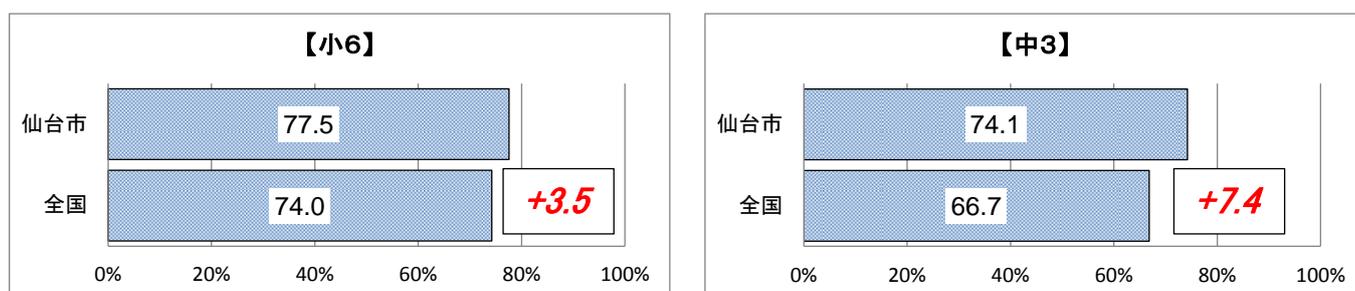
6 6. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



6 7. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



6 8. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている



□指導改善の方策

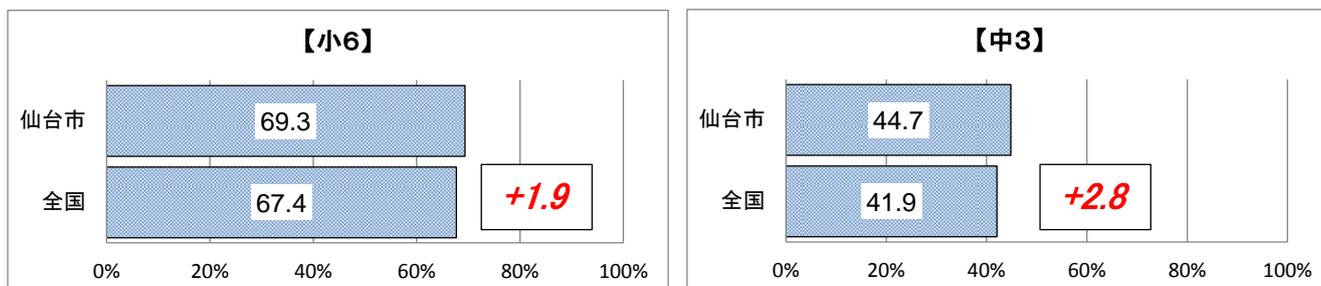
○全体的な底上げを意識した指導

- ・ 話す・書くという言語活動において、児童生徒が意欲的に取り組んでいることから、今後は、話す・書くことを苦手としている児童生徒に対して個別指導を行うなど、全体的な底上げを意識して指導する。

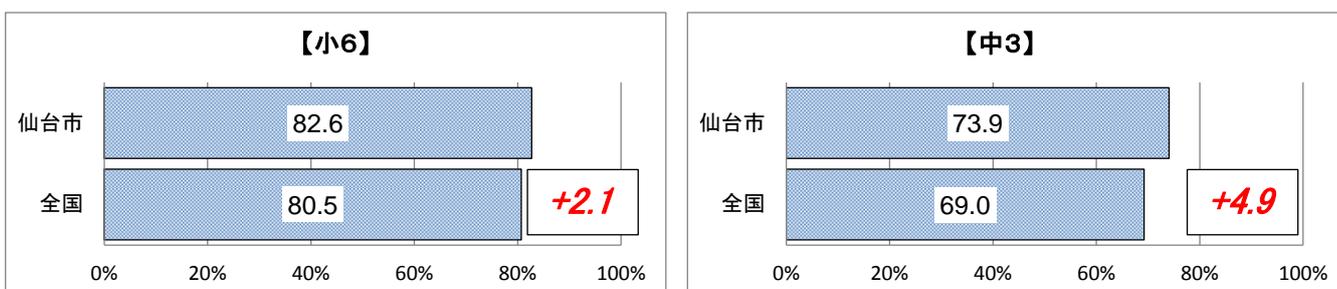
【分析結果 3】

算数・数学では、学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えると回答した児童生徒の割合が高い。また、問題を解くときもっと簡単に解く方法がないか考えたり、公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしたりしていると回答した小学生は高い割合であり、中学生はさらに高い割合である。

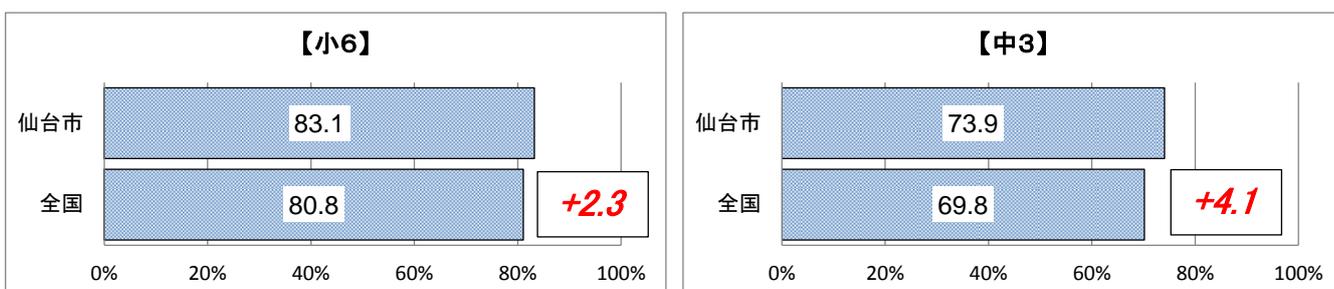
76. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



78. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



79. 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしている



□指導改善の方策

○実生活とのつながりを意識させる

- 算数・数学においては、実生活との関連を図る指導をしたり、学習したことが将来、どんな場面で役に立つか伝えたりするなど、学習したことと生活のつながりを意識できるような場面を設定するなど、授業改善を図っていく。

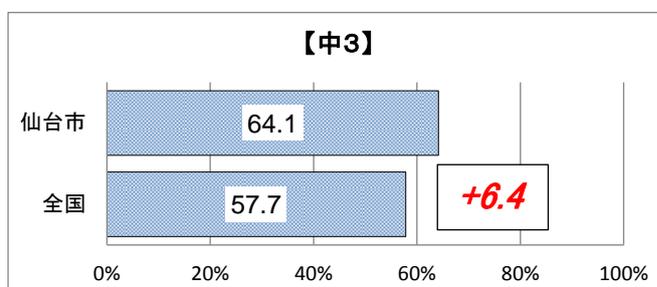
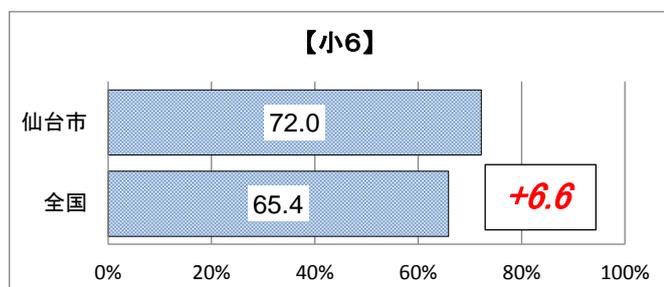
○小中の連携を生かした研修機会

- 小学校の教員と中学校の教員が相互に学ぶ機会をもつなど、小中の連携を推進し、お互いの指導の良さを取り入れた授業を展開することで、確かな学力を身に付けさせると共に、教員の授業力の向上を図っていく。

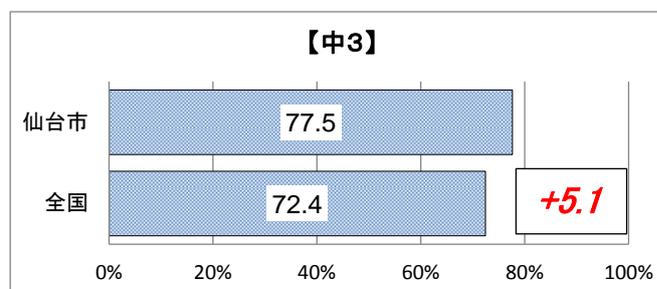
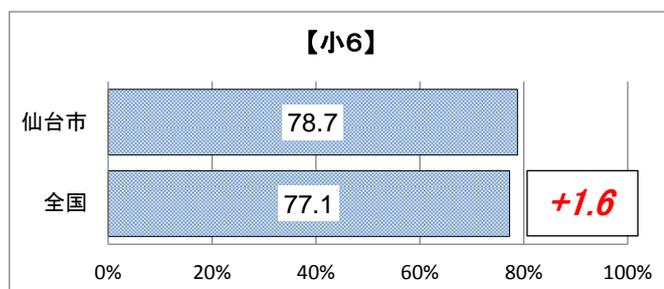
【分析結果 4】

総合的な学習の時間では、課題解決的な学習活動に取り組んでいると回答した児童生徒の割合が高い。また、自分の考えを適切に伝えていると回答した児童生徒の割合が高い。

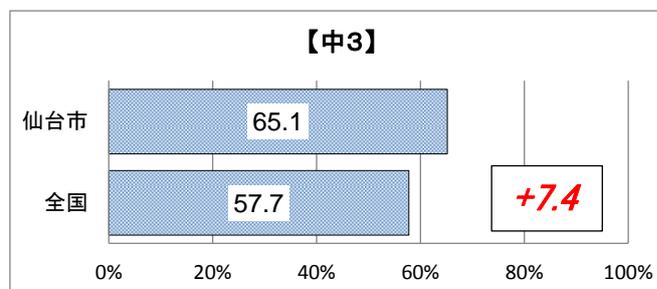
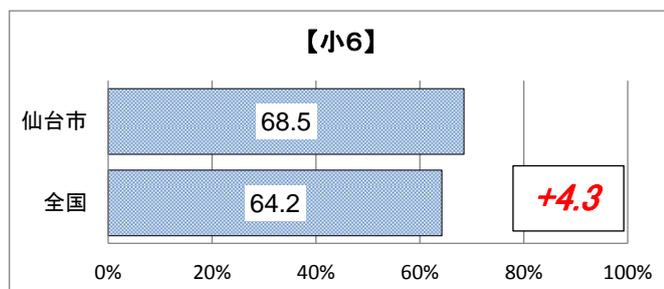
4 6. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



5 1. 授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた



5 2. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた



□指導改善の方策

○「総合的な学習の時間」の主体的取組

- 総合的な学習の時間においては、児童生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることができるよう、授業改善を図っていく。

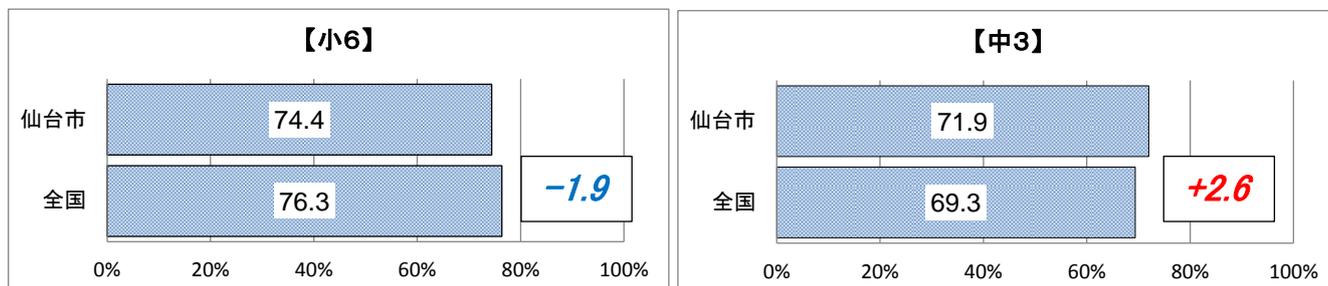
○言語活動の充実

- 国語で身に付けた「話す・聞く」力を活かし、各教科等において、記録、要約、説明、論述、討論などの主体的な言語活動を重視した指導の充実を図る。

【分析結果 5】

自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、全国と比べて小学生は低いが、昨年度より縮まっている。また、中学生は全国と比べて高く、これまでで最も高い割合となっている。

6. 自分には、よいところがある。



□指導改善の方策

○たく生き（たくましく生きる力学習プログラム）の実践

- 自己肯定感を高めていくことができるように「たく生き授業プラン集」の実践を各学校の自分づくり教育年間指導計画に位置付け、計画的な実践を行っていくようにする。

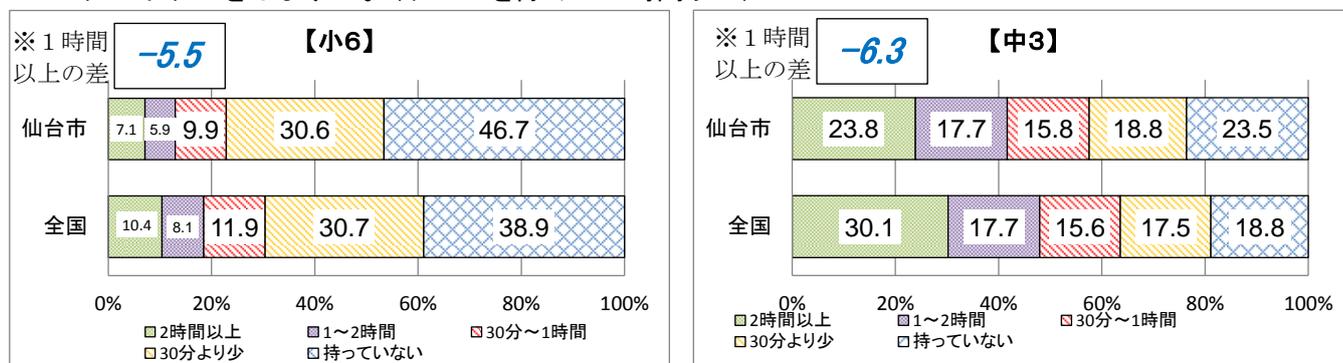
○児童生徒が意欲的に学校生活を過ごすことができる学級・学年づくり

- 児童生徒が安心して自己表現ができるような学級・学年づくりを行い、児童生徒が学習活動等に主体的に取り組んだり、前向きな気持ちで学校生活を過ごしたりすることができるようにする。

【分析結果 6】

携帯電話・スマートフォンで、通話やメール、インターネットを1時間以上使用している児童生徒の割合は低い。

13. 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（ゲームを除く・1時間以上）



□指導改善の方策

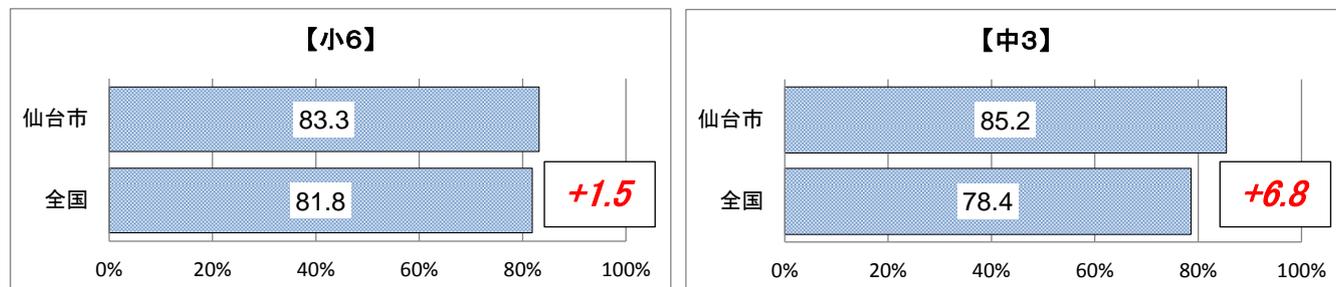
○ルールづくりの推進

- 携帯電話・スマートフォンの不適切な使用によりトラブルとなったり、長時間使用することで学力に影響を与えたりすることを知らせ、携帯・スマホの使用ルールを自ら考えて実践することの大切さを指導する。

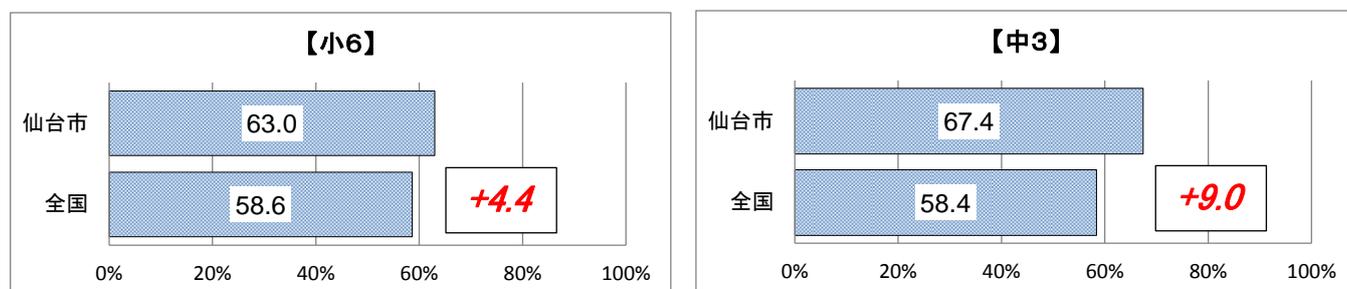
【分析結果 7】

学級会などの話し合いの活動で、話し合っただけで学級のきまりなどを決めたり、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていると回答した児童生徒の割合が高い。

29. 学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めていく



30. 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている



□指導改善の方策

○お互いの良さを認め合う雰囲気づくり

- 児童生徒が、話し合いを通して物事を解決したり方向性を決めたりする中で、お互いの良さを認め合う雰囲気を学級でつくり、一人一人が自己有用感を持ち、意欲的な学校生活を過ごすことができるようにする。

平成28年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果

〈家庭学習〉

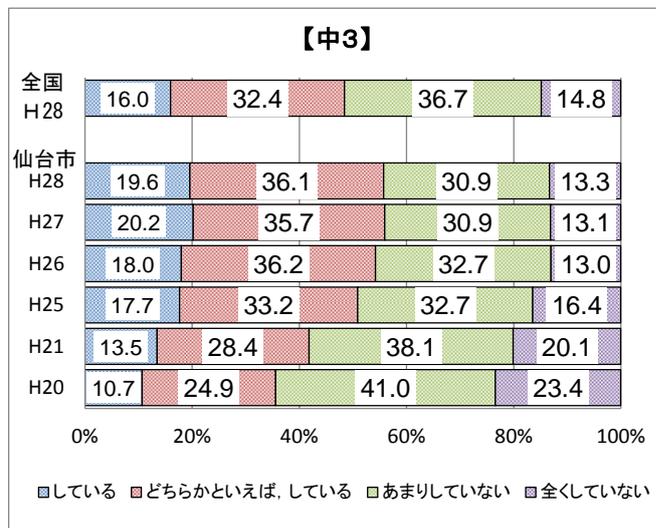
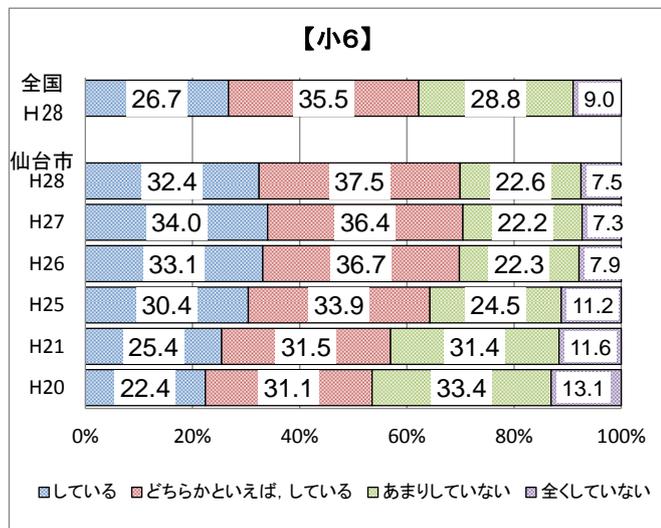
※H22～24は抽出調査のためデータなし

○ 家庭での学習について、以下と回答している児童生徒の割合は、昨年度に引き続き、高く推移している。

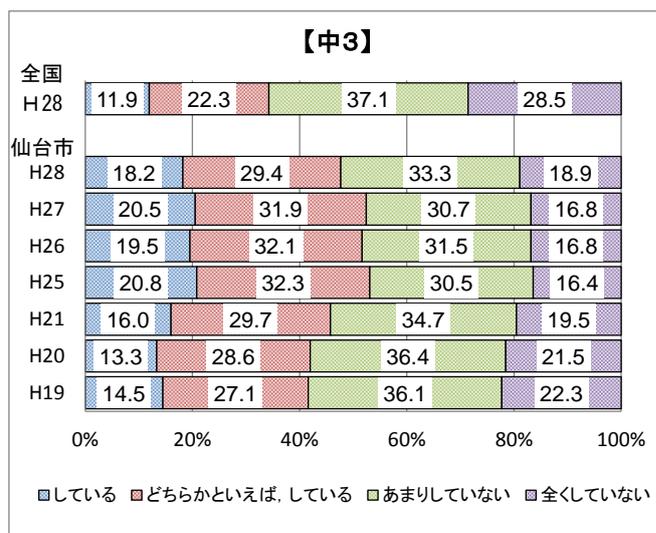
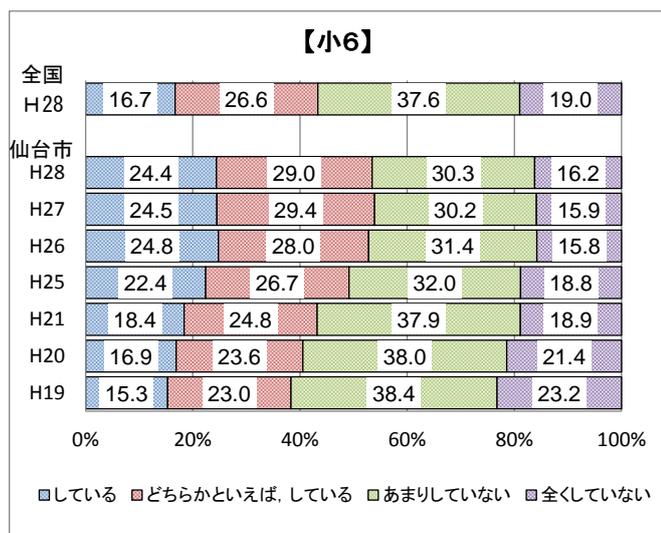
- ・家で、自分で計画を立てて勉強している（21）
- ・家で、学校の授業の予習をしている（23）
- ・家で、学校の授業の復習をしている（24）

◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国と比べて大きく上回っている

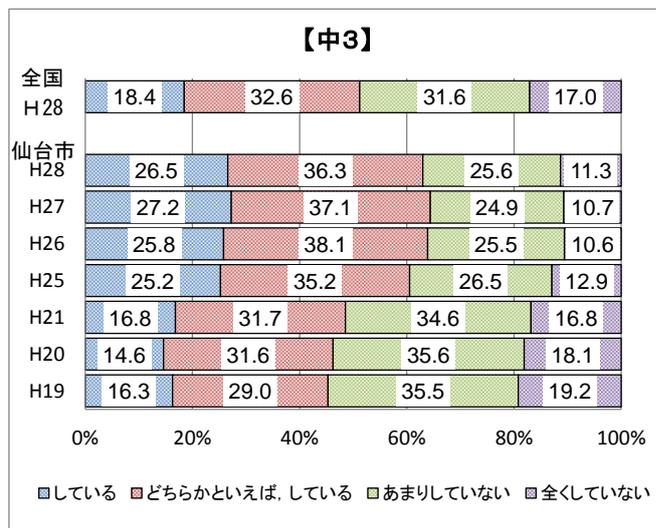
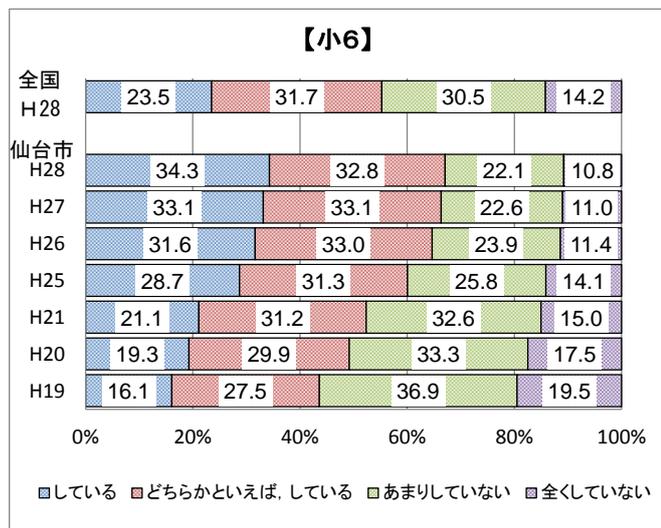
2.1. 家で、自分で計画を立てて勉強している



2.3. 家で、学校の授業の予習をしている



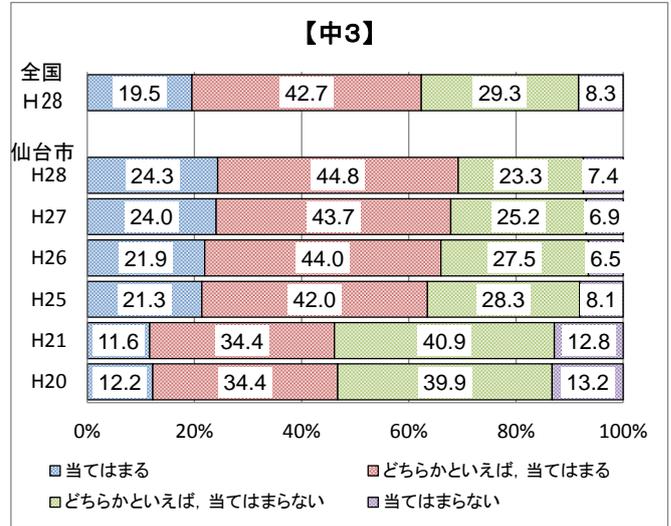
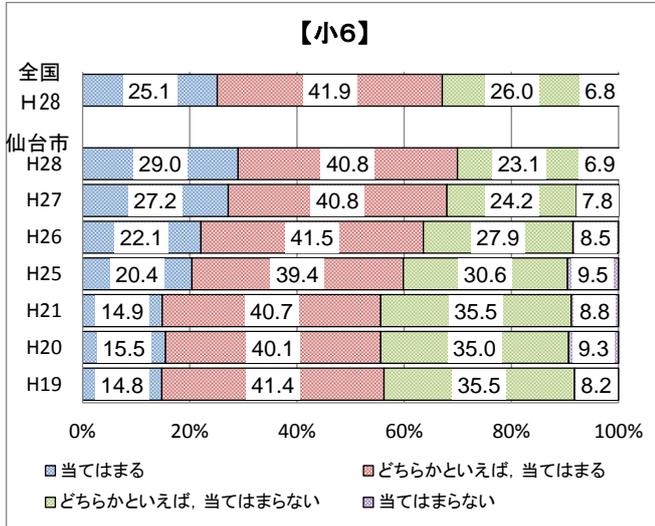
2.4. 家で、学校の授業の復習をしている



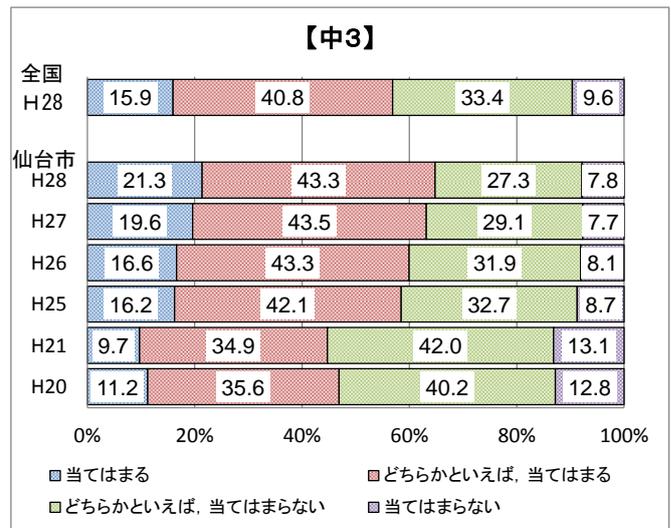
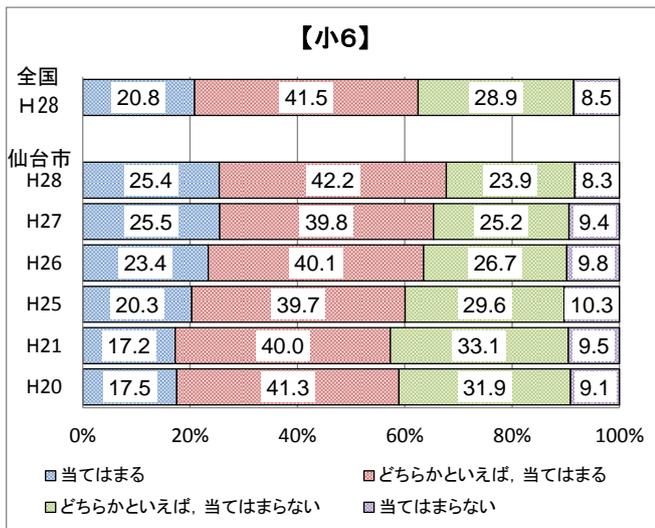
〈国語の学習〉

- 国語の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（66）
 - ・ 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している（67）
 - ・ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（68）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っており、特に中学校では大きく上回っている

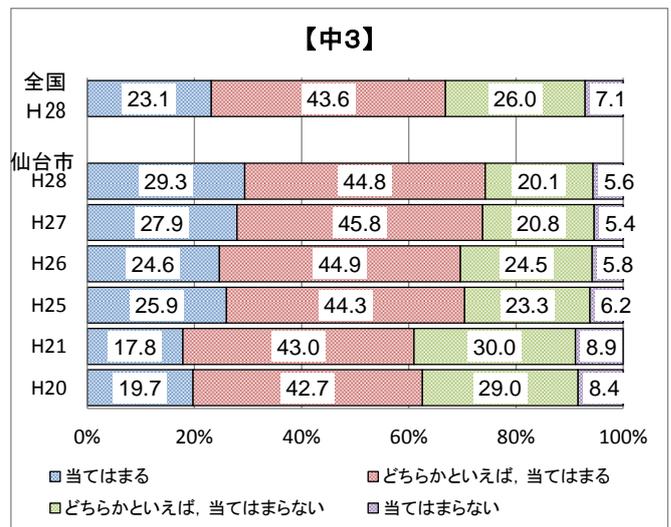
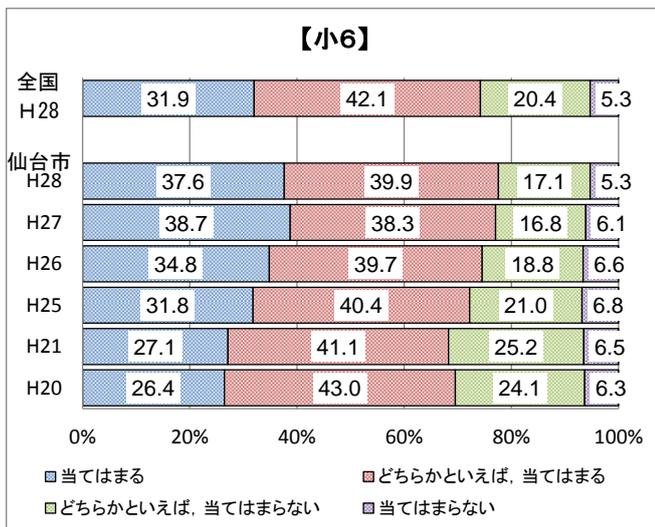
66. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



67. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



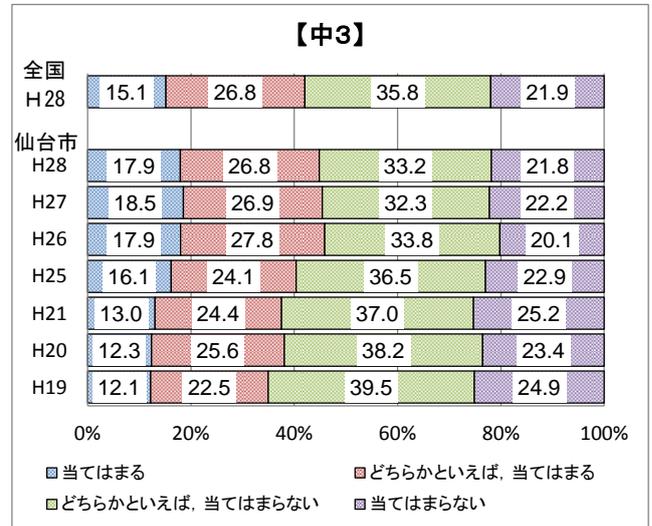
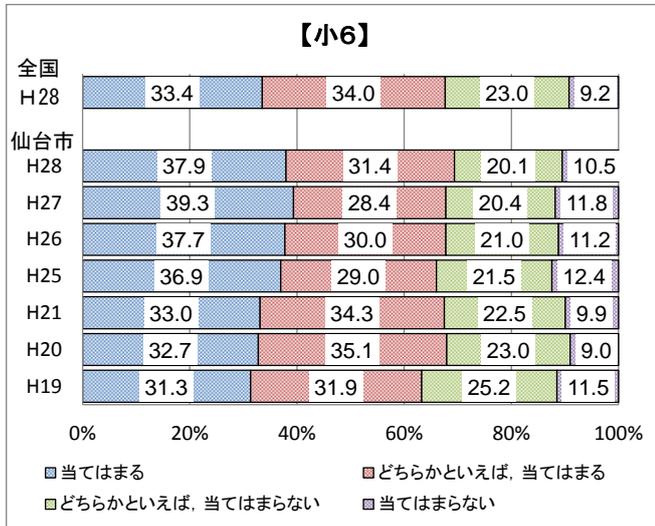
68. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている



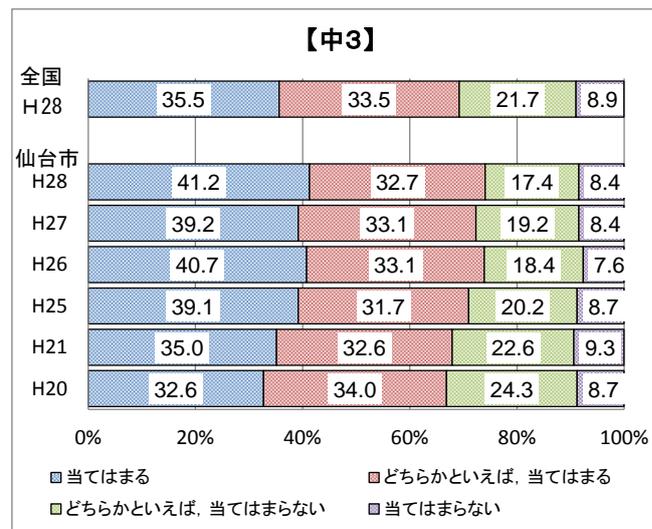
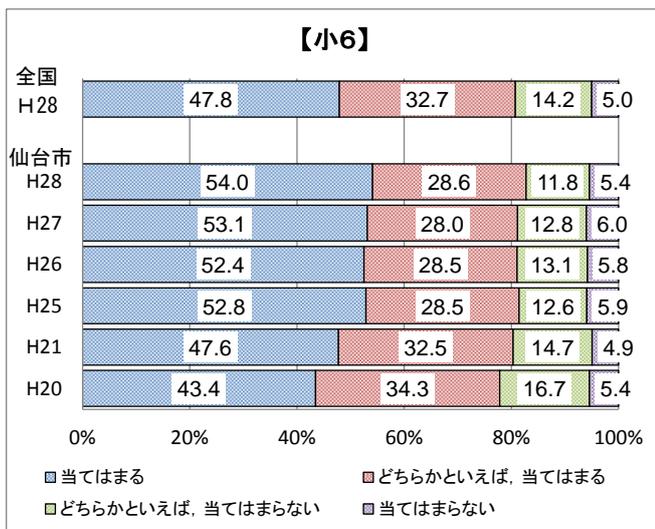
〈算数・数学の学習〉

- 算数・数学の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える（76）
 - ・算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える（78）
 - ・算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしている（79）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っている

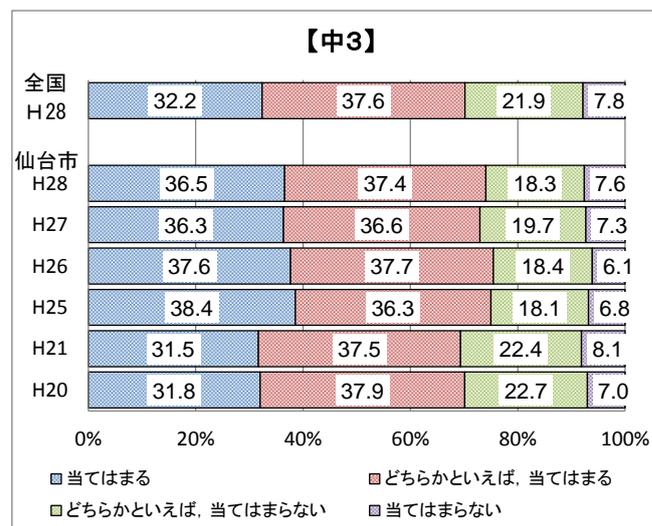
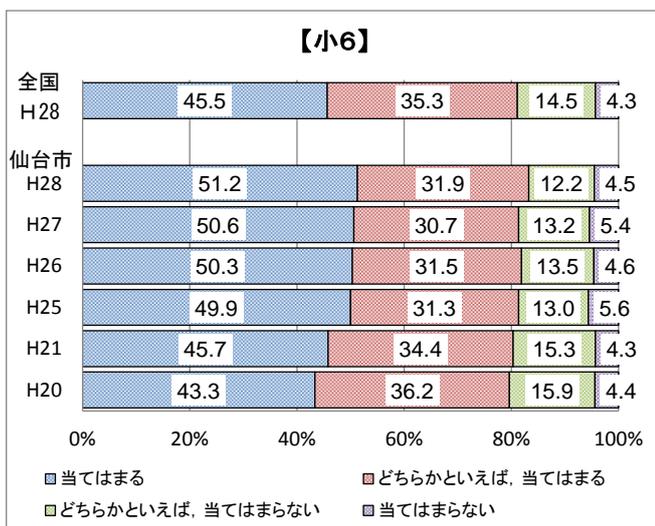
76. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



78. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える



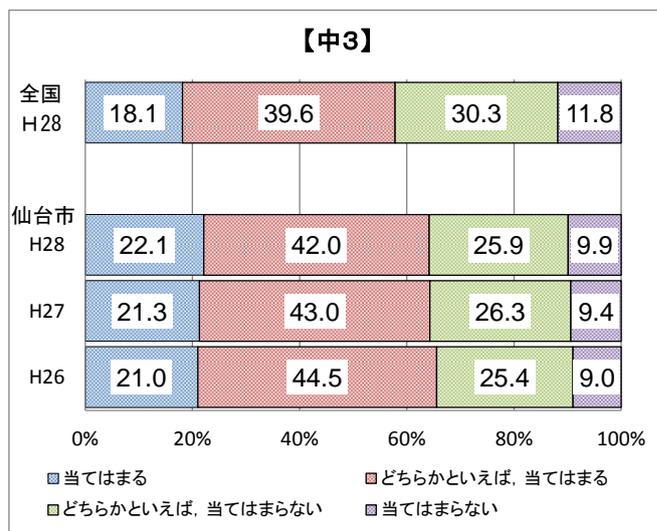
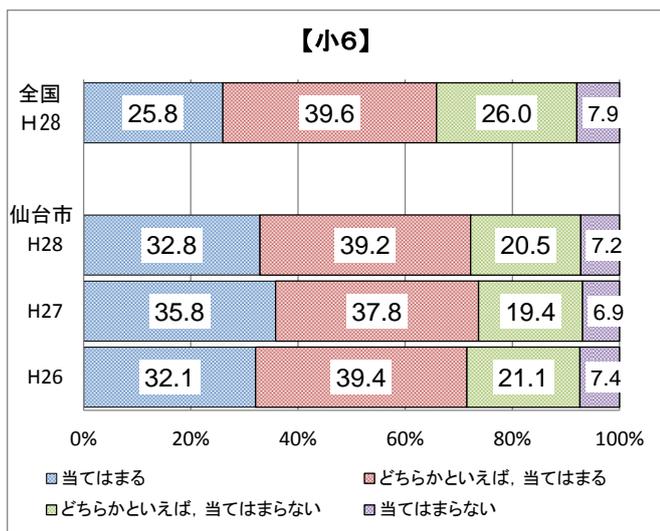
79. 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしている



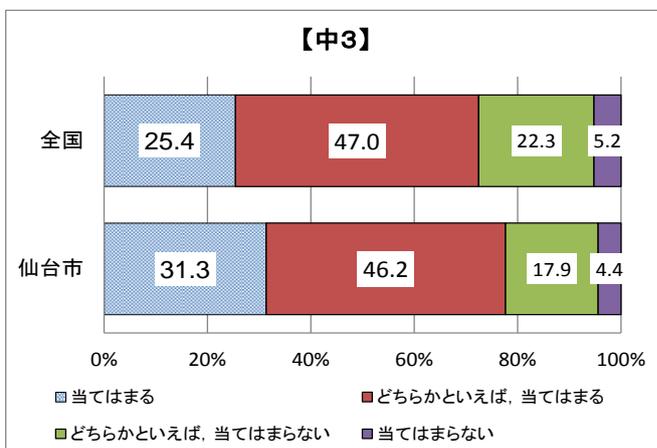
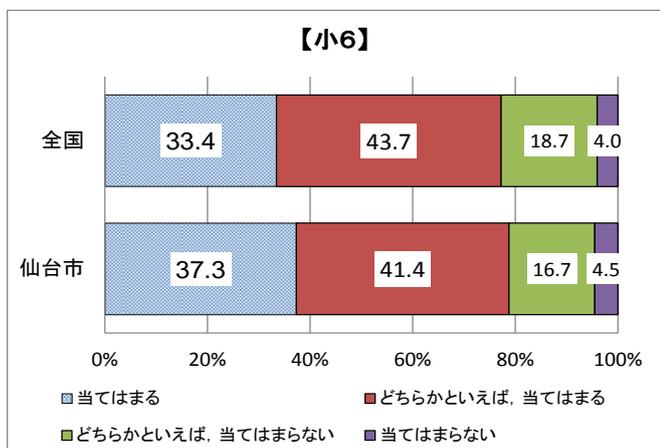
〈総合的な学習の時間・言語活動〉

- ◇ 総合的な学習の時間や言語活動について、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っている
- ・「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（46）
 - ・授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた（51）
 - ・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（52）

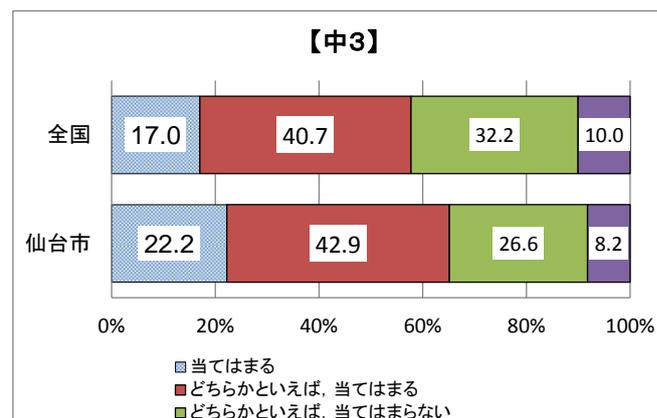
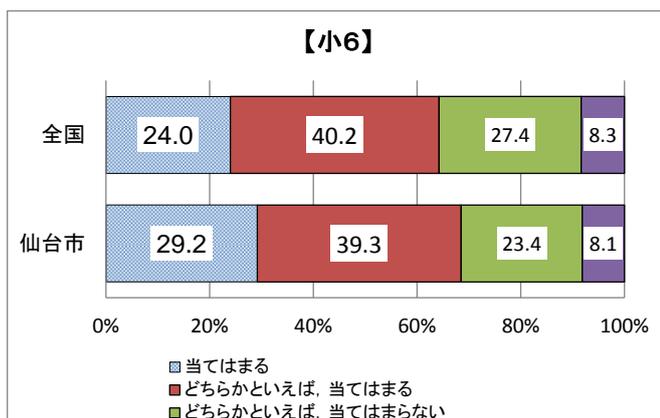
46. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



51. 授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた



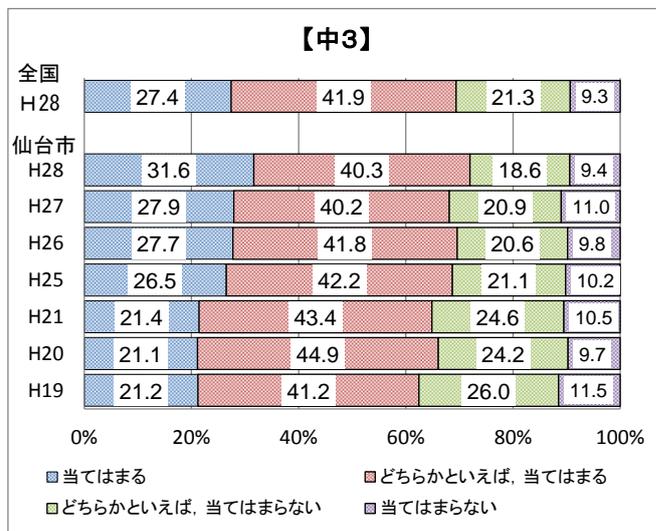
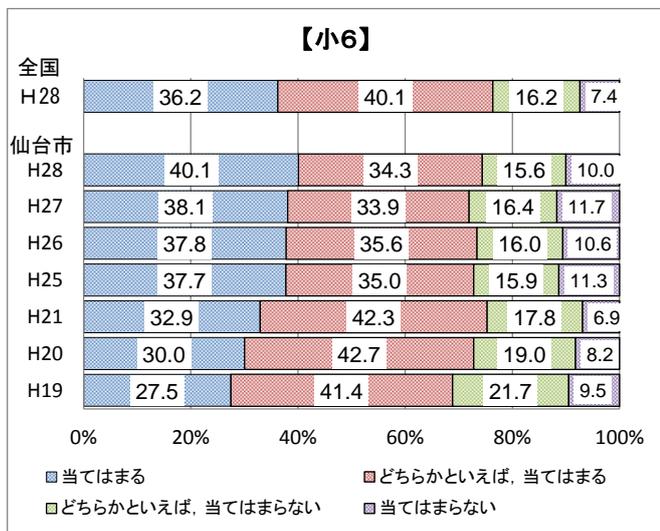
52. 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた



〈自己肯定感〉

○ 自分には、よいところがあると思っている児童生徒の割合は、同程度で推移している。
 ◇ 上記の項目について、児童生徒の割合は、中学校は全国とほぼ同程度であるが、小学校は下回っている。

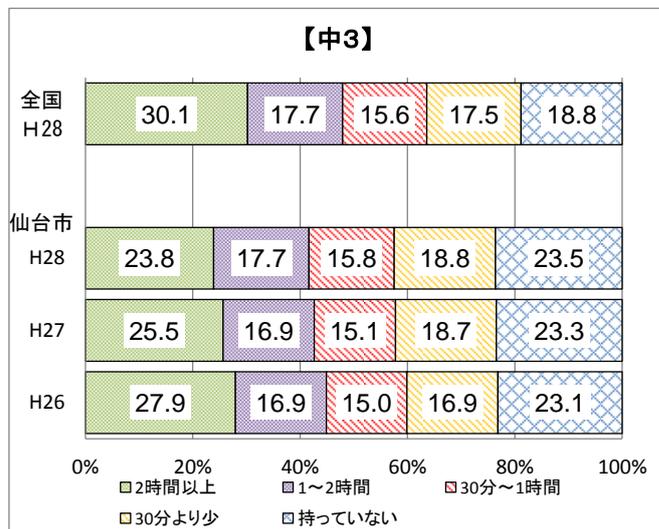
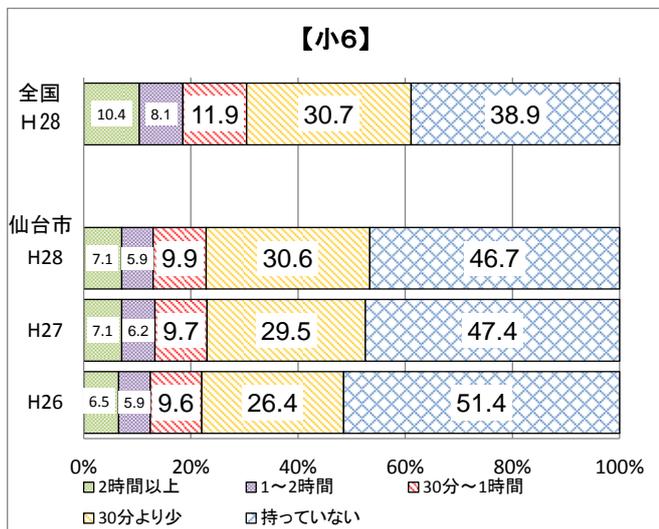
6. 自分には、よいところがある



〈携帯電話・スマホ〉

○ 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを、1時間以上していると回答している児童生徒の割合は、全国を下回っている。

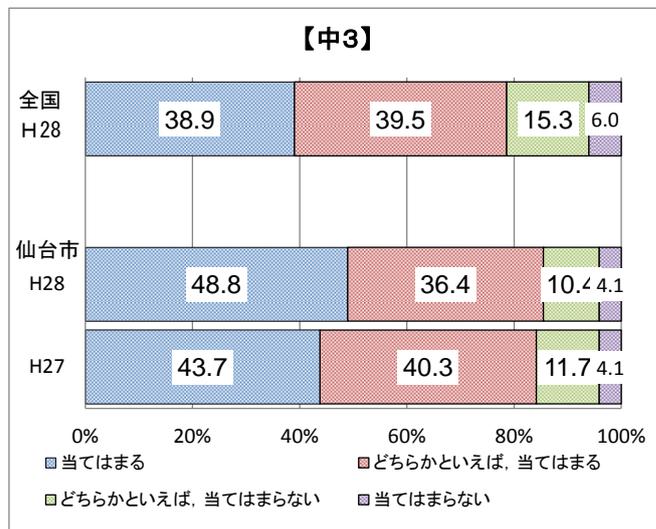
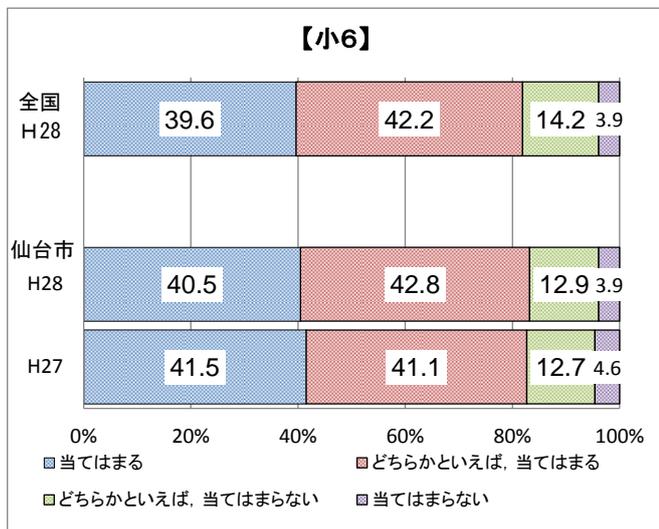
13. 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（ゲームを除く・1時間以上）



〈学級〉

- 学級会などの活動について、以下と回答している児童生徒の割合は、小中学校ともに全国を上回っている
- ・学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めている（29）
 - ・学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている（30）

29. 学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級のきまりなどを決めている



30. 学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている

